

女性の視点を生かそう

避難所の改善や復興計画に



物資を1人分ずつ詰め合わせて「ジョネットセット」を作る

災害時は、髪男女が激しい環境にある。一方、避難所で女性に対する配慮が欠けていることや、女性としての困難と障害者としての困難が絡み合うことがある。女性子どもに向かう暴力が災害時より深刻な形で現れることも、かねて指摘されてきた。「非常時だから」と極端にされがちな課題が、改めて問われる。宮城の女性たちを女性記者が訪ねた。

みやぎジョネットのメンバーは助産師、医師、看護士、カウンセラー、弁護士、司法書士、DVや母子保健などの問題に携わる相談員と、様々な専門知識と長年の支援経験を持つ女性達で構成されている。事務所は、金曜夕方、メンバーが仕事や相談活動を終えたら集まる。まずは、日曜に避難所の女性へ届けようとする「ジョネットセット」づくり。詰め合わせたのはオムツ、化粧水、乳液、日焼け止め、制汗スプレー、水の要らないシャンプー。不織布の袋に1人分ずつ入れる。袋は丈夫で中



「震災以降、初めてヒスをつけた」と井上さん

身も濡れず、洗濯物を入れ替えて持ち歩くのに重宝する。それから、ジョネットサロンの称して手芸をやる。保健の材料の準備、作り方の手順、今回は大層なことに、この手芸品を利用してマスコットを作ることにした。こうした物を持つて避難

所を回ると、フロアやトイレを借りて個室として暮らす女性もいる。水が不足し、排泄物を処理できない状況もある。女性記者は、被災地での生活に慣れた女性記者に話を聞いた。被災地での生活に慣れた女性記者は、被災地での生活に慣れた女性記者に話を聞いた。被災地での生活に慣れた女性記者は、被災地での生活に慣れた女性記者に話を聞いた。

井上朝子さんは重い車いす利用者で、障害者の自立生活を支えるOJTスタッフとして仙台市太白区の事務局に勤務している。被災地では、セブスターもよくある。井上さんが避難所特有の困ったのはトイレ問題。手洗いのない個室に入ると、

内閣府が7月1日から3月27日まで実施した「パブリックコメント」で、性別平等推進部がまとめた「被災地での生活に慣れた女性記者は、被災地での生活に慣れた女性記者に話を聞いた。被災地での生活に慣れた女性記者は、被災地での生活に慣れた女性記者に話を聞いた。」

注) みやぎジョネットは東日本大震災女性支援ネットワークの協働団体です。